

コラム⑳ フードドライブ・フードパントリー ～広がる地域の支援の輪～

ひとり親家庭アンケートでは、過去1年の間にお金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことが「よくあった」、「ときどきあった」と回答した割合は、13.9%となっています（31ページ参照）。

一方、まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」も問題となっており、SDGsの観点からもその削減や有効活用に近年関心が高まっています。区では、特別出張所などで定期的にフードドライブ事業を実施し、食品ロス削減のため、ご家庭で余っている未利用の食品を持ち寄っていただき、区で集約し、ひとり親家庭を支援するフードバンクや大田区社会福祉協議会に提供するフードドライブ事業を定期的に行っています。

大田区社会福祉協議会はコロナ禍にフードドライブ事業を本格的に開始しました。区や大田区社会福祉協議会で集まった食料や、民間企業などから寄付していただいた食料などは、支援を必要としている方たちに無料で食料を配付するフードパントリーに活用しています。

これらの事業は、食料を通じて支援をしたい方から、支援を必要としている方へ届く、支え合いの輪を生み出しています。

最近では、社会福祉法人、子ども食堂などの地域活動団体、民間企業が連携し、食料支援のネットワークをつくる取組みもみられ、地域の支援者の輪も広がっています。

区は、「子どもと地域をつなぐ応援事業」で、このような地域活動団体などの支援情報をひとり親家庭などにお知らせし、子育て家庭が身近な地域の支援情報にアクセスできるようサポートすることで、孤立を予防します。

子どもやその家庭を孤立させずに温かく包み込む「社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）」の理念で、引き続き支援の輪を広げていきます。



フードドライブで集まった食料



ご家庭から寄せられる食品



フードパントリー活動で
子育て家庭を応援



区の防災備蓄食料を有効活用